

チャレンジ 福島 応援隊通信



平成 30 年 10 月 Vol.10

東日本大震災・原子力災害からの風評払拭・風化防止を図るため、全国各地の福島県人会の皆さんと連携して「ふくしまの今」を県外の方々に情報発信する「チャレンジふくしま応援隊」情報発信事業について、平成30年度は14県人会の御協力により実施しています。

「応援隊通信」では、各地の福島県人会の活動状況をピックアップして紹介します。

応援隊参加県人会の現地研修会

「応援隊」として活動いただく県人会の皆さんに、本県の現状を見て、復興状況などへの理解を深めていただくため、平成30年7月12日から13日にかけて、福島県内で現地研修会を実施しました。

今年度の現地研修会は、南相馬市、浪江町、飯館村を訪れる内容で、13県人会19名に御参加いただきました。

初日は、初めに平成30年度から順次開所予定の福島ロボットテストフィールド（南相馬市）を訪問しました。これから様々な施設整備が進むロボットテストフィールドの概要について、県ロボット産業推進室阿久根主事から説明を受け、南相馬市職員の指導でミニドローンの操作体験をしました。



(ミニドローン (○の中) 操作体験の状況)

次に、南相馬原子力災害対策センター（南相馬市）を訪問しました。ここは福島第一原子力発電所で緊急事態が発生した場合に応急対策の活動拠点となる施設で、福島第一原子力規制事務所渡部副所長から施設の概要をお聴きし、施設を案内していただきました。



(原子力災害対策センターの視察状況)

その後、テクノアカデミー浜（南相馬市）での意見交換会で各県人会の活動状況の報告や情報交換などを行いました。

2日目は、浪江町役場に移動し、浪江町まちづくり整備課青田係長から津波被災の状況や、その後の町の復興に向けた取り組み、住民の帰還が難しいという状況などについてお話をお聴きしました。



(浪江町役場青田係長による講話)

参加者からは「（ロボットテストフィールドの）今後建設される施設に期待し、数年後に訪問したい。」「（浪江町で）帰還しないと決めている人の割合が50%というのはショックだった。」などの感想が寄せられました。

町田市福島県人会 金井商店会「さくら花まつり」

今年度から事業を受託した町田市福島県人会は、平成30年4月7日、金井商店会「さくら花まつり」において「応援隊」として初の情報発信活動に取り組みました。

当日は既に桜は散り、風の強い日で、人出は少なめでしたが、福島県産品はほぼ完売しました。

県の観光ガイドブックや応援隊アンケートがきっかけとなって、来場者と県人会スタッフが親しく話し合うことができました。

また、福島大学附属小学校4年生が風評払拭の資料として1年かけて作成したリーフレット「福島の自慢 桃・柿・米」を拡大して店頭に掲げておいたところ、大勢の方が、立ち止まって読んでいました。

応援隊アンケートには協力的な方が多く、福島への関心の高さが見られました。



(町田市福島県人会のブース)

福岡ふくしま県人会

飯倉、原西、賀茂校区の夏まつり

福岡ふくしま県人会では、校区の夏まつりで情報発信活動を行いました。

平成30年7月28日は飯倉校区の夏まつりに「復興支援ブース」と銘打って、朝倉市、東峰村（以上福岡県）、熊本県、福島県の特産品を販売しました。近年は九州でも各地で大規模な災害が発生しているため、福島のPRと併せて特産品の販売を実施しています。福島県産品では、桃のジュース・サイダー、豆菓子、お米（天のつぶ）などの販売を行いました。桃（あかつき）は猛暑により販売を中止したため、リピーターから残念がられました。別の種類（川中島白桃）の注文受け付けを行うことで対応しました。

ブースには、「来て」などの県のイメージポスターを前面に並べ、来場者の目を引くことができました。

8月4日の原西、賀茂校区の夏まつりには、都合によりブース出展はできませんでしたが、福引きの景品として「天のつぶ」（2kg）7袋を提供し、大変喜ばれました。

また、飯倉校区と同様に、桃（川中島白桃）の注文を受け付けました。



(飯倉校区夏祭りでのブースの様子)

今後も、各地の県人会の皆さんの活動を紹介します。よろしくお願ひします。

【編集・発行】

福島県 県民広聴室

TEL : 024-521-7013

Eメール : koucho@pref.fukushima.lg.jp

